

緑井財産区・
ご ん げ ん ざ ん
権現山の本

ふるさと にとっておきガイド

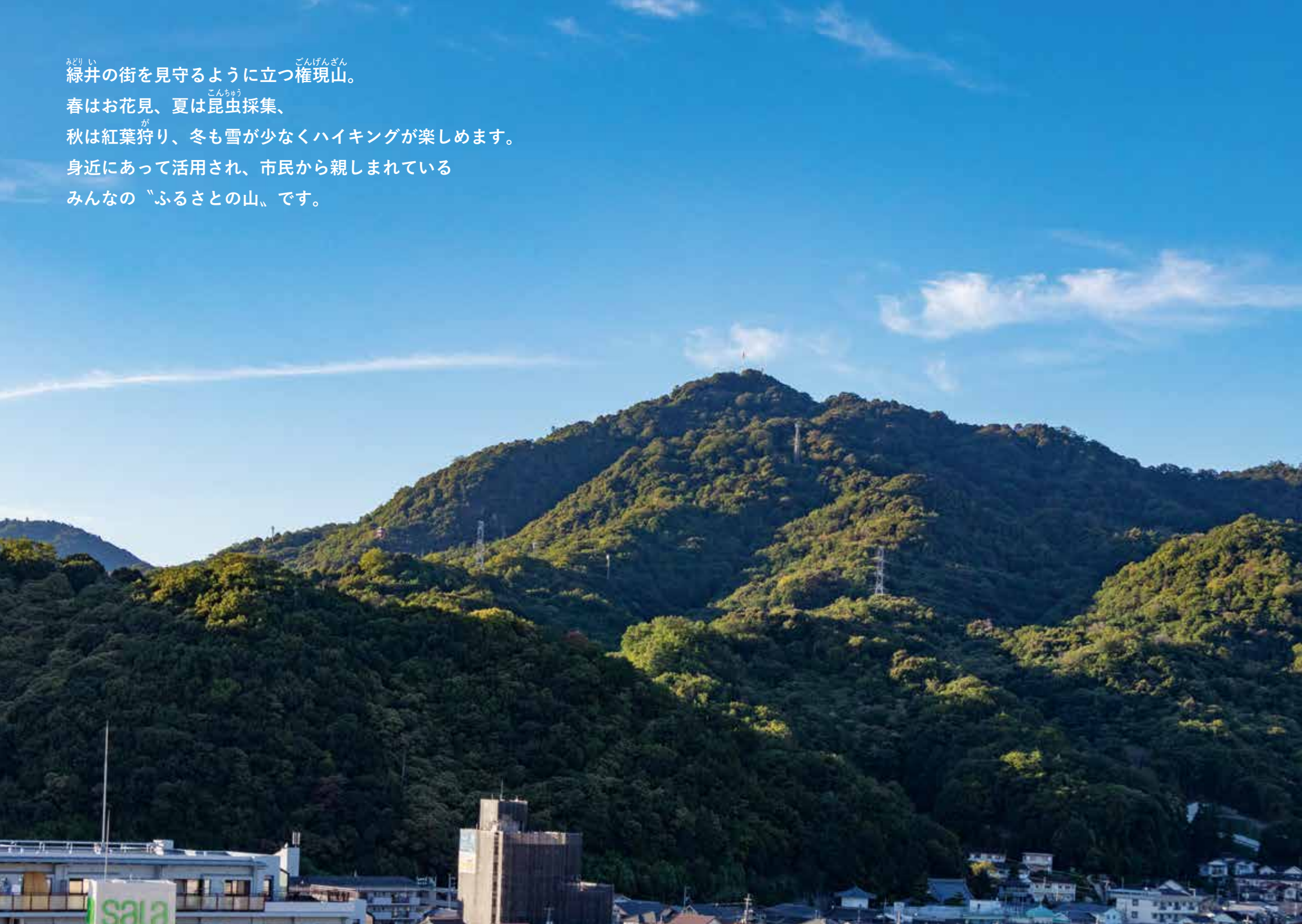
みどり 緑井の街を見守るように立つごんげんざん権現山。

春はお花見、夏はこんちゆう昆虫採集、

秋は紅葉狩り、冬も雪が少なくハイキングが楽しめます。

身近にあって活用され、市民から親しまれている

みんなの“ふるさとの山”です。



はじめに

財産区とは

財産区は、市町村合併の際に、元の市町村が所有する山林等の財産の管理、処分を合併後の市町村から独立して行うことを認められた特別地方公共団体です。

明治22（1889）年に施行された市制町村制により、大規模な合併が行われました。政府は、合併を円滑に進めるため、合併後も、生活資源として村民にとって必要不可欠だった山林等を村民共有の財産として保有することを認め、財産区が誕生しました。

財産区の構成員は、区域内に住所を置くすべての住民です。

財産区の財産の全国的な例として、山林、土地、ため池、温泉があります。

緑井財産区のあゆみ

緑井財産区は、昭和の大合併により、昭和30（1955）年に緑井村・八木村・川内村が合併して佐東町となった際、共有林の権現山を佐東町とせず、地域の共有財産とするために設置されました。そして、昭和48（1973）年に佐東町が広島市と合併した際も、権現山は緑井財産区の財産としてそのまま引き継がれました。

しかしながら、現在は、住民が農作業等に必要な薪や肥草を採取するといった生活資源としての役割がなくなり、広島市から独立して財産区として管理していく必要性が薄れてきたため、廃止することとしました。

緑井財産区の活動

緑井財産区議会設置条例に基づき、緑井財産区の区域（旧緑井村）に住所を有する者の中から議員を選出し、議会を開催してきました。議会では、権現山の管理について話し合い、環境を維持するため竹林等の整備を進めてきました。近年の活動としては、ツツジ・桜の苗木、肥料を購入し、展望台周辺への植林を行うとともに、平成26（2014）年8月豪雨災害を受け、土砂流出防止機能の高い森林づくり事業に着手し、森林が持つ防災機能を活かすための樹木の伐採、土砂留め柵の設置、鹿侵入防止柵の設置に取り組んできました。

緑井財産区議会設置条例

緑井財産区議会設置条例

昭和48年8月15日
条例第109号

- (設置)
- 第1条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第295条の規定に基づき、緑井財産区（以下「財産区」という。）に議会を置く。
- (定数)
- 第2条 財産区の議会の議員の定数は、7人とする。
(令3条例37・一部改正)
- (任期)
- 第3条 財産区の議会の議員の任期は、4年とする。ただし、補欠議員の任期は、前任者の残任期間とする。
- (選挙権)
- 第4条 市の議会の議員の選挙権を有する者で引き続き3箇月以上財産区の区域内に住所を有するものは、財産区の議会の議員の選挙権を有する。
(被選挙権)
- 第5条 財産区の議会の議員の選挙権を有する者で年齢満25年以上のものは、財産区の議会の議員の被選挙権を有する。
(選挙人名簿)
- 第6条 財産区の議会の議員の選挙に用いる選挙人名簿は、公職選挙法（昭和25年法律第100号）第19条の規定により調製された選挙人名簿のうち、財産区の議会の議員の選挙権を有する者に係る選挙人名簿又はその抄本によるものとする。
- 附 則
- この条例は、公布の日から施行する。
- 附 則（令和3年6月23日条例第37号）
- この条例は、次の一般選挙から施行する。

財産の位置図・面積（令和4年度末時点）

所在地：安佐南区緑井町字権現山 5669 番地 1 ほか

土地（山林）面積：475,123.77㎡

立木の推定蓄積量：14,249.06㎡



目次

- 2p インTRODakShION
- 4p はじめに
- 7p 緑井財産区議会議長メッセージ
- 8p 権現山ストーリー ～フォト&エッセイ～
やすらぎの物語の宝庫
金運アップ!? 商売繁盛の神さまにお参りしてみよう
四季折々の表情を愉しむ
権現山の「昔と今」を比べてみよう
- 20p 権現山いろいろQ&A
- 24p 歴史・文化探訪の里山歩き——コースガイド
毘沙門天参道 ①
毘沙門天本堂 ②
西廻り遊歩道 ③
権現山頂上 ④
東廻り遊歩道 ⑤
権現山／四季の小図鑑
- 40p 権現山とわたし ① —— 権現山賛歌
- 44p 権現山とわたし ② —— 権現山を守り、育てる
- 48p 緑井歴史物語

緑井財産区議会議長メッセージ

権現山（一部）は、古くから緑井地区の住民皆の財産として大切にされてきました。昭和30（1955）年、緑井村が八木村・川内村と合併して佐東町が誕生した際に、権現山の一部は旧緑井村の区有財産として管理されることになり、「緑井財産区議会」が発足しました。昭和48（1973）年に広島市との合併後も引き続き存続しましたが、このほど70年を迎えるのを前に山を広島市に寄付し、財産区を解散する運びとなりました。



権現山は、「野山」と呼ばれ、緑井の人々に身近な里山として親しまれてきました。かつては、中腹あたりまで柵田があり、皆、秋になれば松茸を採りに行き、冬から春先にかけては地域総出で鎌を持って下刈りに行きました。刈った枝は必要な人が持ち帰って薪として活用しました。三本松に囲まれた宇那木山2号古墳のある平らな場所へは、春になると皆で花見に行きました。私も子どもの頃は権現山を遊び場に、カズラにぶら下がったり友だちと砦を作ったり、野いちごやアケビを採ったりしたものです。

現在では権現山は広島市の「憩の森」として、皆さんに安心して利用していただくため、地域のボランティアの方々のご協力もあり、遊歩道やトイレなどが整備されています。緑井財産区は、市が権現山に植林する桜の苗を毎年寄付してきました。桜のほかに、秋の紅葉も見事です。木の実に誘われて野鳥もやって来ます。また登山ルートから眺める広島デルタ地帯の絶景や毘沙門天参道の歴史散策など魅力にあふれています。

このような自然と歴史豊かな権現山を歩けば、心身の健康によいでしょう。これからも、より多くの方に権現山の里山歩きを楽しんでいただけたらと思います。緑井の宝・権現山は、私たちの地域をずっと見守ってくれることでしょう。

令和5（2023）年9月

緑井財産区議会議長
植竹正彦

やすらぎの物語の宝庫

権現山の魅力を一言で表現すると、「物語の宝庫である」ということだろうか。古墳時代、中世、近世、そして近現代に至る歴史の中で、絶えず人々の営みの風景の中にこの山は溶け込んできたといえるだろう。

大切に思う対象や信仰の場、さらには哀しみの癒し場として広島デルタ地帯に住む人々へ安心できるというやすらぎ空間を与え続けてきた。その空間には、やすらぎの物語が蓄積しているのである。

見晴らしのいい場所にある古墳時代の集落遺構からは、当時のほのぼのといた日々を思い出し、懐かしむことができる。また中世から信仰されて

いる毘沙門堂界隈の参道には、現世利益を強く願う人々で賑わった名残りが未だに漂っている。そして原爆犠牲者を供養する多宝塔周りの木々には、故人の供養と平和を願う無言の祈りが木霊として宿っている。

やすらぎの物語の宝庫である権現山は、現在、広島市民の「憩の森」として親しまれており、普段見過ごしがちになる「心の憩い」を取り戻す大切さを現代の私たちに教えてくれる里山ではないだろうか。

(里地里山歩きのプロ・清水正弘氏)





仁王門をくぐり、初寅祭へ（令和5〈2023〉年2月4日）



石段を登る一步一步を七福神が見守ります（大黒天）



生い茂る杉林の中には、樹齢百年を数える大杉も



石段の途中には縁結岩もあります

金運アップ!? 商売繁盛の神さまにお参りしてみよう

権現山のふもとには仏教の守護神4人のうちの1人、毘沙門天を祀る「毘沙門堂」が建っています。毘沙門天は商売繁盛、縁結びの福の神、また七福神の1人として信仰を集めています。行基という人が作ったといわれる毘沙門尊像は年に一度、旧暦初寅前の土・日曜日の「初寅祭」で御開帳されます。

- * 1 行基：飛鳥時代から奈良時代にかけて活動した日本の仏教僧
- * 2 旧暦：昔ながらの日本の暮らしの暦
- * 3 初寅：日にちにはそれぞれ十二支が割り当てられていて、寅にあたる日を「寅の日」といいます。12日ごとに巡ってくる吉日で、初寅は一年の最初に来る寅の日です
- * 4 御開帳：寺・神社で貴重なものを公開すること



びしゃもんどう ほんどう
毘沙門堂の本堂。初寅祭には多くの参拝客が訪れます



両手が届けばその年の福を授かるという福石



とら しゅじょう びしゃもんてん
寅は衆生（生きるものすべて）を救う毘沙門天の使いといわれます



御本尊は毘沙門天王です



たほうとう
多宝塔からは広島市を一望できます



ひしゃもんどう とうぼうだいしぞう
毘沙門堂境内の弘法大師像

四季折々の表情を愉しむ^{たの}

春になれば^{ごんげんざん}権現山の日当たりのよい斜面に桜が咲きみだれ、花見に訪れる人が絶えません。夏は^{りよくいん}緑陰が爽やかな風を送り、秋になれば紅葉が^{にしき}錦のように山を彩ります。ドングリを集めながら歩いてみるのもよいでしょう。整った道は冬でも歩きやすく、自然が私たちが^{でむか}温かく出迎えてくれることでしょう。

* 5 緑陰：青葉が茂（しげ）った木々の陰

* 6 錦：いろいろな色の糸で織った高級な織物のこと



斜面に咲く見事な桜



初夏に白い花を咲かせるエゴノキ



足にやさしく歩きやすい遊歩道



山頂の駐車場周辺は桜の名所



たほうとう
多宝塔周辺も紅葉が鮮やか



おねみち
尾根道に沿って岩が露出しています



緑陰の中を歩きます



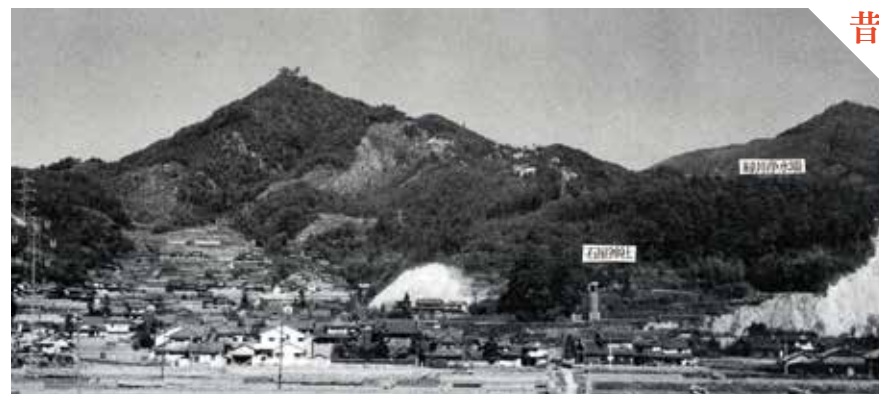
木々が織り成す秋色（頂上付近）

権現山の「昔と今」を比べてみよう

権現山とその周辺は古くから開け、人口が集中する広島へ野菜や米を出荷して人々の食生活を支えたり、太田川の舟運（舟による交通や輸送）や街道が通る要所でした。今もベッドタウンとして多くの人が暮らし、高速道路や鉄道など時代につれて形は変わっても、交通機関が接続する重要な地点として発展を続けています。

*7 ベッドタウン：大都市周辺の住宅地域

街並み全景

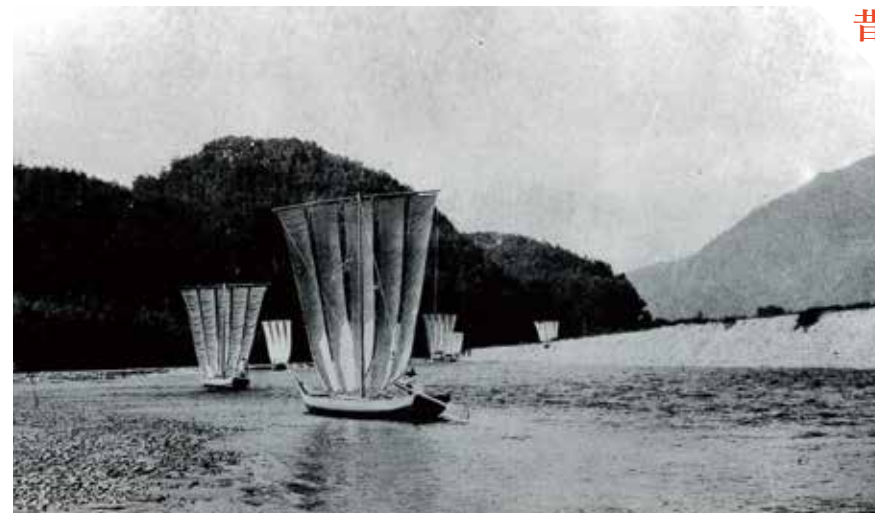


写真右手の山裾に見える緑井浄水場は、昭和44（1969）年から多くの方が使用しています。かつては南側の山のふもとに田んぼが広がり、稲刈りの後にはハデ干し（天日干し）をしていました（左、権現山。写真は『想いでの佐東町2』佐東地区まちづくり協議会、平成11年より掲載）



一帯はビルや住宅が建ち並ぶ市街地となり高速道路、アストラムラインなどが走っています。住宅地として発展を続ける様子がよくわかります（中央左が権現山）

太田川帆掛船と山陽自動車道



大正時代に現在の高瀬堰付近を帆掛船が行き交う様子です。下流から上流へ流れを遡るには帆を使い風力を利用しました。太田川の舟運は明治時代に最盛期を迎えましたが、やがて鉄道や道路など陸上交通の発達や、水力発電所建設で水量が減るなどして昭和初期にはほぼ下火になりました（写真は『想いでの佐東町』佐東地区まちづくり協議会、平成8年より掲載）



現代の交通の重要地点、太田川をまたぐ山陽自動車道です。広島インターチェンジは昭和63（1988）年に開通しました

びしゃもんてんはつとらさい
毘沙門天初寅祭



昔

毘沙門堂では、年が明けて最初の寅の日とその前日に「初寅祭」が開かれ、このときだけ毘沙門尊像が御開帳されていました。昔は遠方からも大勢の人が参拝するので、長い石段が人で大渋滞し、登り降りするだけで長時間かかったといいます（写真は『想いでの佐東町2』佐東地区まちづくり協議会、平成11年より掲載）



今

現在、ご住職は初寅祭のときだけおいでになり、初寅祭の準備や運営、お守りや御朱印の授与は岩谷地区の方々がご奉仕されています。長い石段の途中には屋台が並び、JR 緑井駅からの臨時シャトルバスも運行され賑やかに開催されます
*8 御朱印：神社や寺にお参りしたときに、証（あかし）として授けられる印

かべせん
可部線



昔

明治42（1909）年12月に、現在の可部線より簡易な軽便鉄道の古市橋駅・上八木駅間が開通しました。緑井駅は毘沙門天への参詣者を呼び込めることと、雲石街道に近く住宅が多かったことで今の場所が選ばれました。当時のルートは古市小学校の西側を通り、途中に古市駅がありました。昭和初期に電化に伴い今のルートに変更されました（写真は可部線SL〈昭和46年3月上八木～中島間〉『想いでの佐東町』佐東地区まちづくり協議会、平成8年より掲載）

*9 軽便鉄道：日本では明治から昭和の中頃まであった簡易な規格の鉄道で、レールの幅がせまく、小型の車両で運行されていた



今

平成15（2003）年に可部駅から三段峡駅までが廃止されましたが、その後平成29（2017）年可部駅からあき亀山駅までが電化して延伸開業し、鉄道の廃止区間が復活した全国初の事例となりました。可部線は令和2（2020）年・3（2021）年連続で混雑率132%で西日本一となっています

権現山いろいろ Q&A

ごんげんざん
権現山って、どんな山？ 権現山のプロフィールをさまざまな角度から見てみましょう。

どんな山？

広島市安佐南区緑井にあり、標高は 397m です。登山口までは広島交通バス「毘沙門天」停留所から徒歩 5 分、アストラムライン「毘沙門天駅」から毘沙門天参道入口までは徒歩 5 分です。阿武山の南に位置し、市民の憩いの森として親しまれ、縦走も人気があります。

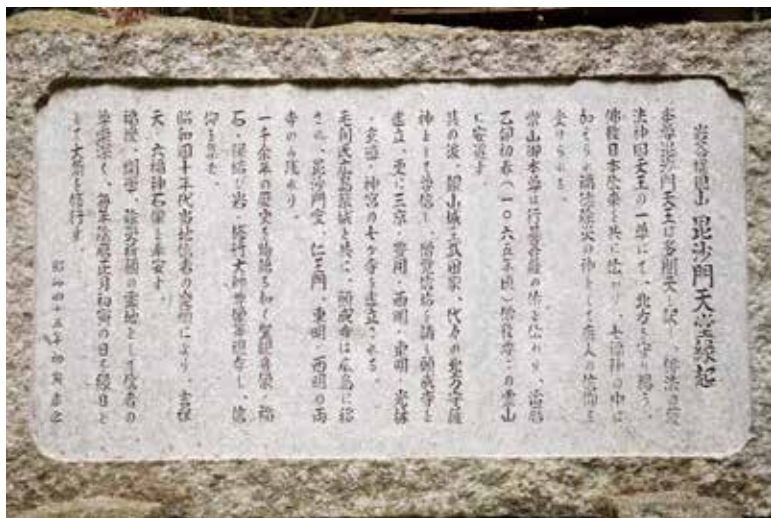


「憩の森」表示板

* 1 縦走：山から他の山へと続けて歩くこと

名前の由来は？

権現とは、仏・菩薩が衆生（生きるものすべて）を救うため、権に神・人などの身になって、この世に現れることをいい、山の神のことを権現と称してきました。古来人々は、霊山や聖地の山を仏菩薩や神霊の棲み処として畏敬の念をもって接し、「権現」という名が付く山は、近隣の住民から尊崇の対象とされてきました。



毘沙門天堂縁起（建てられた由来）が記された石碑

保安林って何？

特定の公益目的のために農林水産大臣または都道府県知事によって指定される森林のことで、権現山の山頂付近一帯は大正 3 (1914) 年から広島県の土砂流出防備保安林に指定されています。樹木などの働きで下流への土砂の流出を防ぐのが目的です。森林法に基づき、樹木の伐採（切り倒し）には広島県知事への許可申請や届出が必要です。



* 2 公益：広く社会一般の利益

銀山城の鬼門とは？

銀山城とは安芸国守護・武田氏の居城で、元徳元（1329）年に安芸武田5代目信宗によって、現在の安佐南区祇園の武田山に築られました。日本では古来より北東の方角を鬼門といい、鬼が出入りする方角と恐れられていました。銀山城から見て権現山がちょうど鬼門にあたるため、武田氏が崇拝していた毘沙門天を権現山に祀り守護を祈りました。



左、武田山

灯ろうって何のためにあったの？

明治から大正にかけて、太田川では舟や筏を使って物資の輸送をしていました。上流域で生産された木材は筏に組んで、広島デルタ地域（太田川三角州）に運ばれました。木材を運び終えた筏師たちは、櫂（船を漕ぐための道具）を担いで旧道を歩いて戻りました。その道しるべとして旧道に沿って置かれた石灯籠を、今も毘沙門天の参道などで見ることができます。



野山って何？

「野山」とは江戸時代以降に決められた、村や個人で管理できる山のことです。村人が草木を自由に採取して家畜の餌や田畑の肥料に活用できました。権現山も野山として、緑井村で共同で管理していました。裾野から中腹までは「腰林」といって個人別に区分けして管理し、家ごとに山菜採りなどに活用しました。昭和の中頃まで使われていた段々畑の石垣跡なども残っています。藩が管理する山は「御登山」といい、無断で入山することも枝一本持ち帰ることも厳しく禁じられていました。



中世には防衛戦略上の拠点だった？

権現山の付近は中世の頃、防衛戦略上の重要な地点だった可能性があります。現在、園地広場のある場所がかつて「中ノ城」という城跡があったとされ、ふもとの古川左岸には太田川の水軍（川の内警固衆）の一つ、福井氏の屋敷跡がありました。山頂からは太田川とその支流の安川と古川が合流して広島湾へと注ぐのがよく見え、はるか瀬戸内海の小さな島々までが見渡せます。南以外の三方には権現山よりも標高の高い山々が防御壁のように連なる有利な場所のため、広島城下町と太田川や瀬戸内海の水軍の動きを監視できたことでしょう。



広島湾を遠く眺められる

* 3 防御壁：敵の攻撃などを防ぎ守る壁

歴史・文化探訪の 里山歩き

——コースガイド

里地里山歩きのプロ・清水正弘氏が案内



毘沙門天参道からの 徒歩ルートを行く

この山はさまざまなアプローチ方法がある。それこそ車で山頂近くまでヒョイっと近づくことも可能である。確かに星空観察や夕陽、朝陽鑑賞などには車を利用していいだろう。ただ、この山の持つおくぶか（おくぶか）みりよく（みりよく）さんろく（さんろく）びしゃもん（びしゃもん）奥深い魅力を体を感じるには、ぜひ山麓の毘沙門天参道（びしゃもんだいえき）からの徒歩ルートを味わっていただきたい。

まず、アストラムライン「毘沙門台駅」から安佐中学校方面へと歩くと、中学校先の三叉路（3本の道が集まる交差点）に「権現山・毘沙門天参道・毘沙門堂これより1850米」という大きな縦看板がある。その標識からは住宅地の中を小さなカーブを繰り返しながら緩やかな上り坂が続いていく。この小さなカーブ道では、参拝客で賑わっていた昔の面影が懐かしく思い出され、心がほんわかするのである。

このコースであれば、初心者でも安心して歩けるだろう。ゆっくりめの標準コースタイムとすれば、毘沙門台駅から毘沙門堂間が片道約1時間。毘沙門堂から山頂までは往路45分、復路30分。休憩も含めると全行程4時間前後ではないだろうか。いずれにしても、スポーツ登山の対象の山としてとらえずに、歴史・文化探訪の里山歩きとしてこの山と接してもらいたい。

*1 探訪：物事を見聞して歩きまわること

*2 里山：さほど山奥ではなく、人の住む近くにある低い山や森



毘沙門天参道 ①

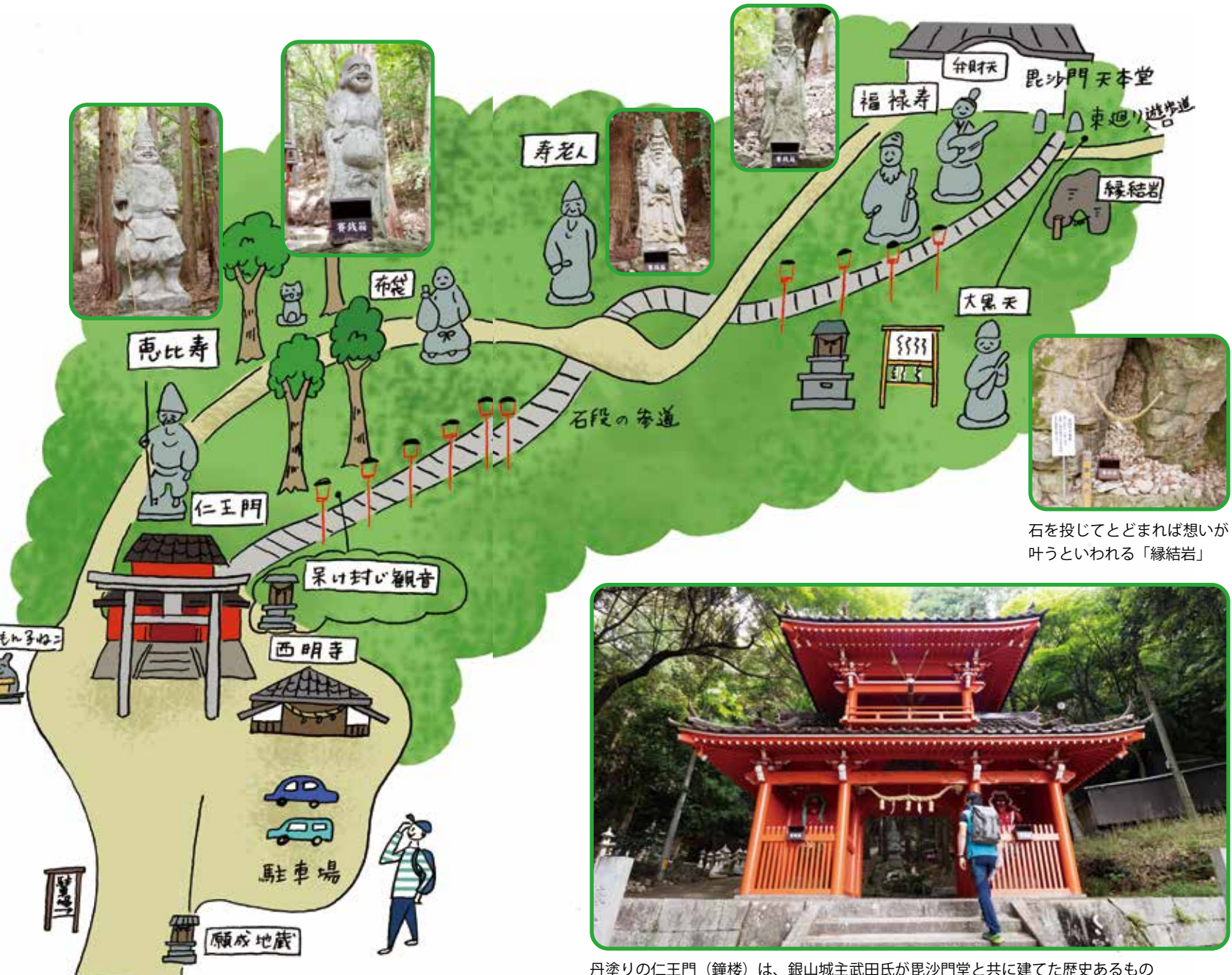
恵比寿さまが
出迎えてくれる

毘沙門天入り口からは風景が一変する。まるで現代の聖なる場所との境界線の雰囲気とする赤い鐘楼をくぐると、釣り竿と魚を抱えた恵比寿さまが出迎えてくれる。ここから本堂までは、頭上から絶えず木漏れ日が降り注ぎ、足下の苔むした参道を不思議な空間に彩っている。

* 3 鐘楼：寺院の境内にある、鐘（かね）をつるすための建造物



仁王門をくぐると大きな杉の木立。境内まで石段が続く



丹塗りの仁王門（鐘楼）は、銀山城主武田氏が毘沙門堂と共に建てた歴史あるもの

毘沙門天本堂 ②

荘厳な岩塊に
圧倒される

本堂に到着すると、建物裏手にある巨大で荘厳な岩のかたまりに圧倒されるだろう。初寅祭の日には、この本堂で御本尊が開帳される。

* 4 荘厳：重厚で神秘的なこと



かつて境内にあった大杉の株「御神杉」



本堂背後の見事な大岩



大岩石の中から現れた神石を祀った神石社



本堂脇の成就観音



毘沙門天の使いである百足を象った紋



初寅祭 授与品



虎のような姿の狛犬も毘沙門天の使い

西廻り遊歩道 ③

多宝塔からの眺めは最高

本堂脇からは、西廻り遊歩道を歩き里見の岩を経て、多宝塔へと向かう。多宝塔周辺からの西南方角の見晴らしは絶景であり、特に日が沈む時にはこの場所に佇みたくなるだろう。

多宝塔から山頂へは30分程度の登り勾配が続いていく。

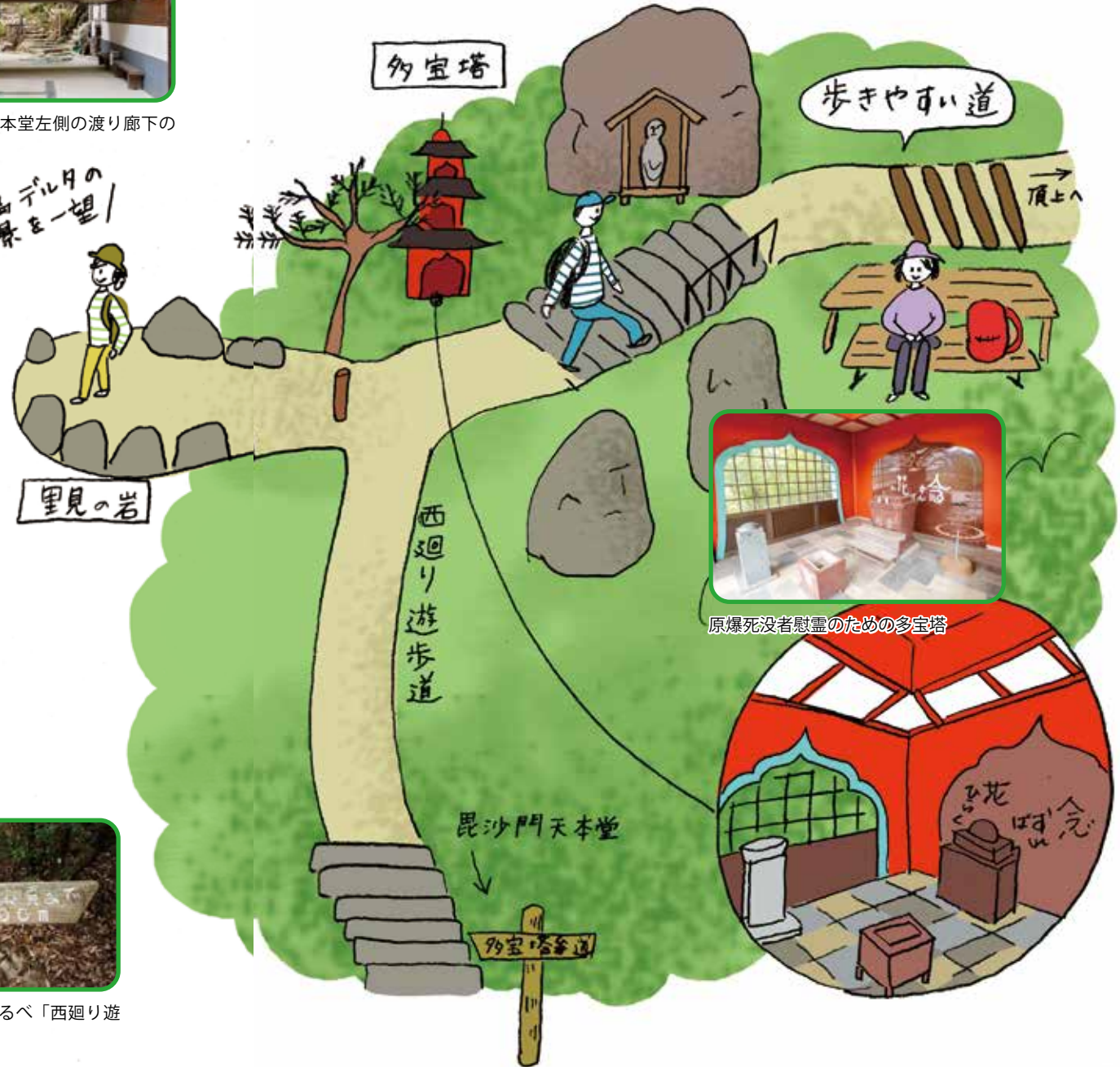
*5 佇む：しばらく1か所に立ち止まる

*6 勾配：傾斜面（けいしゃめん）の傾（かたむ）きの程度。斜面

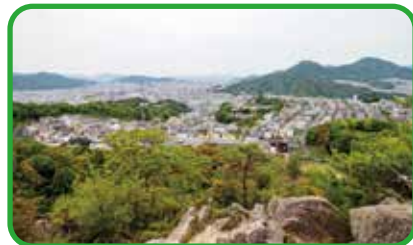


登山口は本堂左側の渡り廊下の向こう

広島デルタの
絶景を一望！



多宝塔から眺める夕陽は思わず息を呑む絶景



多宝塔下にある自然展望岩「里見の岩」



登山口に入っすぐの道しるべ「西廻り遊歩道 権現山頂まで700m」

権現山頂上 ④

山頂付近は、春は桜、秋は紅葉が楽しめる

山頂にはテレビ塔があり、その南側に三角点もある。山頂付近は、春は桜、秋は紅葉が楽しめる。また、鳥越峠を越えて、阿武山への里山歩きも人気コースとなっている。

*7 三角点：正確な位置を求める測量を行うときに基準となる点

権現山山頂の三角点



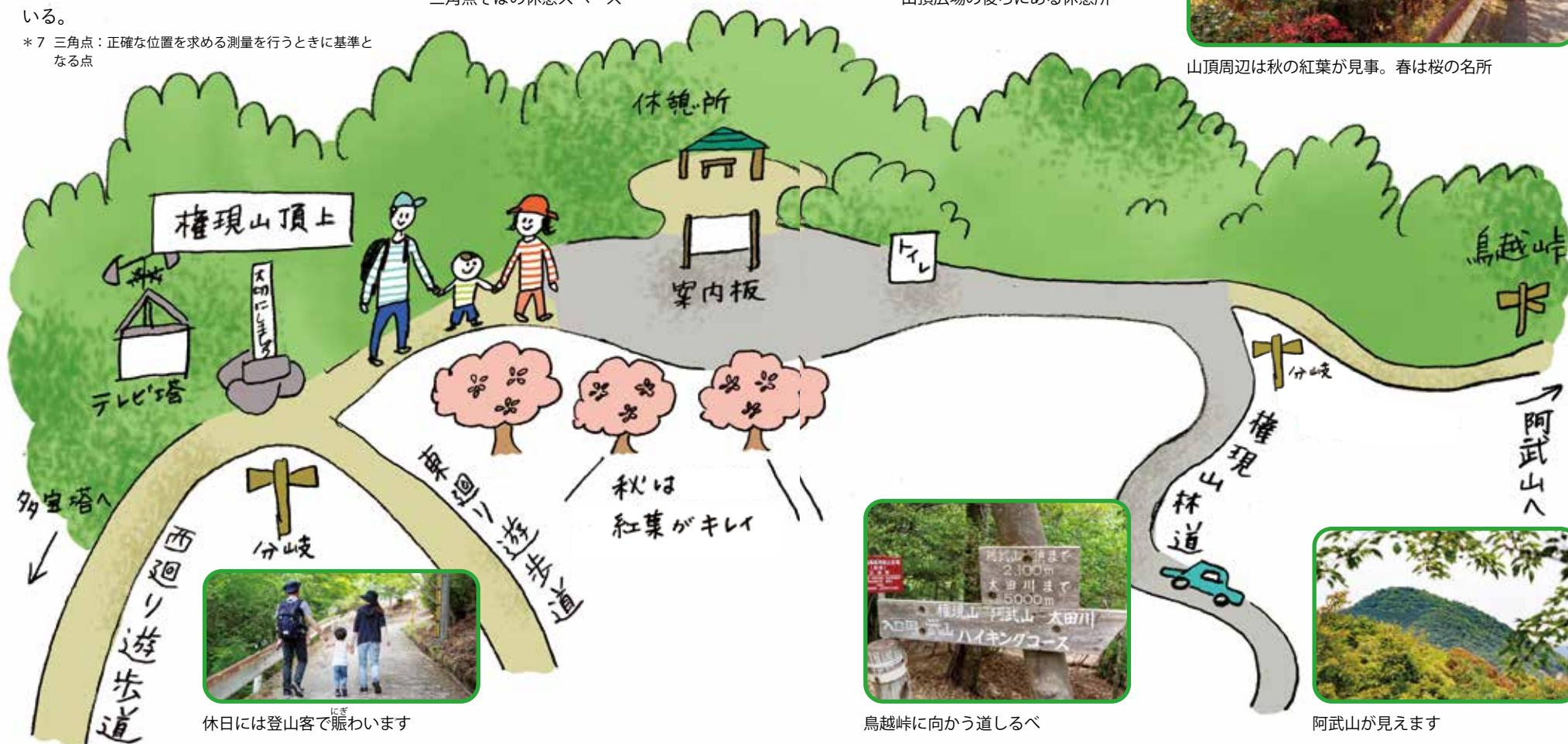
三角点そばの休憩スペース



山頂広場の後ろにある休憩所



山頂周辺は秋の紅葉が見事。春は桜の名所



休日には登山客で賑わいます



鳥越峠に向かう道しるべ



阿武山が見えます

東廻り遊歩道 ⑤

整備された山道沿いには、古墳の遺構も

復路は、山頂手前の分岐標識から東廻り遊歩道^{*8}を歩きたい。整備された快適なトレイル^{*9}沿いには、巨石群や古墳遺構、そして眺望ポイントなどが点在している。眺望ポイント手前の分岐からは毘沙門堂への山腹沿いの下り道を歩く。少し急な勾配^{こうばい}の場所では慎重に足元を確認しながら進みたい。

毘沙門堂からは往路と同じ道をゆっくりと毘沙門台駅へと向かう。

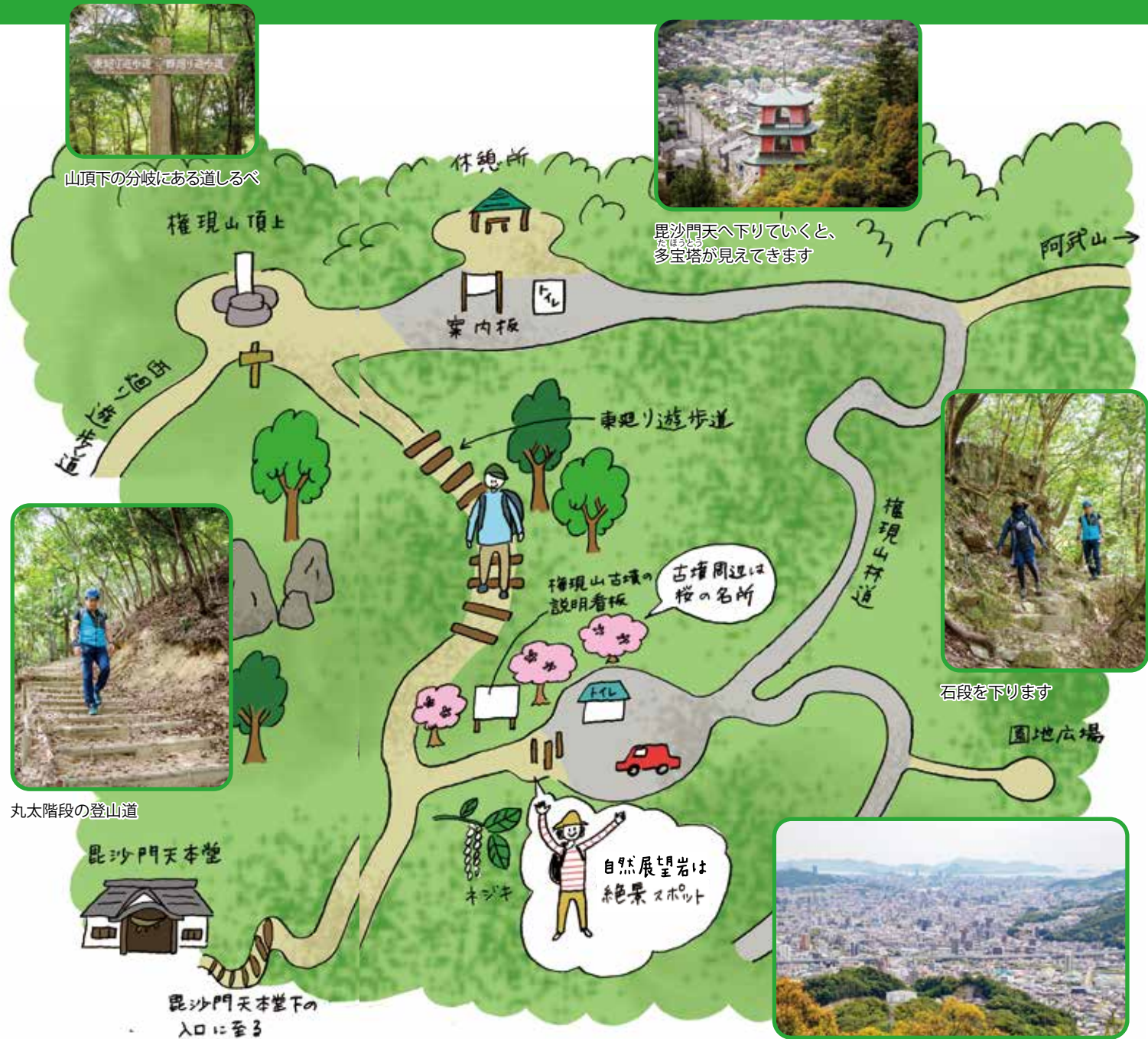
- *8 トレイル：森林や原野、里山などにある歩くための道
- *9 遺構：古代の人間がつくった建造物や物、生活した跡（あと）など



中腹の駐車場から権現山古墳や自然展望岩へ



登山道そばの権現山古墳



山頂下の分岐にある道しるべ



毘沙門天へ下りていくと、多宝塔が見えてきます



石段を下ります



丸太階段の登山道



古墳下の自然展望岩からは瀬戸内海まで見えます

権現山／四季の小図鑑

草花、樹木、鳥、
そして地質のお話

権現山は主に「花崗岩」という岩石でできています。今から1億4000年ほど前に、火山のマグマが地中の深いところで長い年月をかけ、ゆっくりと冷えて固まってできた火成岩の仲間です。権現山の花崗岩は灰色の石英や白色の長石の中に、黒っぽい粒の黒雲母が混じっている黒雲母花崗岩で、広島県の中部・南部によく見られることから広島花崗岩とも呼ばれます。別名「御影石」ともいわれ、ビルの壁や墓石などにも使われる石です。毘沙門堂の本堂の上にそびえる大岩もこの黒雲母花崗岩です。

権現山は古くから毘沙門天を祀る山として大切にされており、年月を経た大きな木が多いのが特徴です。珍しい植物としては、中腹にタマミズキという大木があります。晩秋に多数の美しい赤熟した実をつけます。ギフチョウの幼虫の餌になるカンアオイという芳香が強い草も自生しています。権現山は元々、常緑の広葉樹からなる照葉樹林でシイやカシなど、どんぐりの実る木がたくさんあります。冬に赤い実を付けて縁起がいいと喜ばれるマンリョウも群れで生えています。近年、照葉樹

林に人の手が加わるようになり、針葉樹のアカマツ林が増えています。

四季の見どころは、春に山頂広場にヤマザクラやソメイヨシノが咲きます。古墳の周辺と園地広場も花見の名所です。同じ時期にコバノミツバツツジが登山道脇で桃色の可愛い花を咲かせます。秋はモミジの紅葉やカクレミノの黄葉が山頂付近などで見られます。登山道脇で鮮やかな紫色の実を付けるヤブムラサキやムラサキシキブもきれいです。

近年、鹿が増え、鹿が増えるため草花は減ってはいますが、黄色い花を咲かせるアキノキリンソウや野菊などは咲いています。中腹から山頂にかけてコシアブラやタカノツメが生えており、秋はキノコも顔を出します。

ソヨゴ、ナツハゼなど実のなる木が多いので、ヒヨドリなどの野鳥が食べにきます。コゲラやアオゲラなどのキツツキの仲間もいて、登山道でトントントン…と木をつつく音を耳にすることもあつしょう。美しい植物を目で見て、香りをかぎ、鳥の声を聞いて権現山の自然を五感で楽しんでみましょう。



尾根道に沿って細粒黒雲母花崗岩の巨石が連なっています。風化しやすい性質があり、内部の割れ目の周囲だけが年月を経て崩れたあとに、このような大きな岩石が残されています



3～4月頃、桃色の花を咲かせるコバノミツバツツジ。権現山にはこのほかにも、数は少ないですが珍しいヒメヤマツツジの小さな花も咲きます



5月頃に木の上で香りの良い白い花を咲かせるタムシバ。コブシの仲間です。中腹から山頂にかけてみられます



4月上旬にはソメイヨシノが満開になります。園地広場のソメイヨシノは山の下からも咲いているのが見えます。山頂付近には自生するヤマザクラと植えられたソメイヨシノの両方が咲き華やかです



オオバヤシャブシは3～4月頃に黄色の花を咲かせ、秋に付く実は緑色から段々と茶色になります。成長が早く根をしっかりと張るので、斜面が崩れないよう保護するために植えられています



オスのアオゲラ。権現山にはアオゲラのほかにひと回り小さいコゲラもいます。どちらもキツツキの仲間で、樹木の幹をくちばしでつつき、中にいる昆虫を食べます



初夏、5～6月頃につりがね状の小さな花を咲かせるネジキ。権現山にはよく似た花のアセビもありますが、どちらも毒があるので鹿が食べません。アセビとの違いは花の付く位置で、アセビは葉の上、ネジキは葉の下に花が付きます



まだ寒い2月頃から4月頃まで花を咲かせるヤマツツバキ。花の奥には蜜がたっぷりあって、メジロやヒヨドリが美味しい蜜を吸いに飛んできます



花の蜜や木の実が大好きなヒヨドリ。ピーヨピーヨと大きな声で鳴くのでこの名前が付けました。春から夏にかけてはコガネムシの幼虫も食べます

権現山とわたし①—権現山賛歌

古くからたくさんの人に愛されてきた権現山。権現山と共に歩み、守って来た方々にその思いを伺いました。

財産区の議長も務めた十数年 毎日のように権現山に登ったあの頃

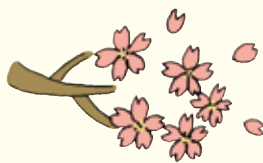
よしののぶお
吉野宣生さん



私は平成5（1993）年から平成21（2009）年まで、緑井財産区の議員を4期16年務めました。議長を拝任するにあたっては、「権現山のことをもっと理解しておかなければならない」と思い、毎朝、権現山に登るようになりました。その頃は、登りがわずか45分。下りはもう、走るようにして20分。若かったですから。それは楽しかったですね。

権現山の北東山麓に接して広島市の玖谷埋立地というゴミ処分場があります。建設前には住民の皆さんのところに一軒一軒足を運んでは意見に耳を傾け、行政と地域との調整役として精力的に動いたのが思い出ですね。

緑井財産区は、金銭ではなく、地域の皆さんの楽しみになるような“財産”といえましょう。その一つが、財産区による桜の植林です。「権現山を桜の山にしよう」と、麓からもよく見える場所を選び、計画的に植えました。見上げて美しく、登れば花見もできる山になりました。財産区が活動を終えるのはさみしいですが、これからも若い人たちに権現山を楽しんでもらえたらと思います。無理のないように、ケガのないように…安全にできる活動をしてほしいですね。



権現山の整備ボランティアに長年参加 豊かな自然を子どもたちの憩いの場に

やまとのりかず
山本登一さん



権現山憩の森整備事業のボランティア活動に、第一回目からずっと参加しています。桜の植林にも参加しましたし、遊歩道整備も毎回参加しています。私はもともと山岳家でいろいろな山へ登ってきました。今は登るよりも整備などのボランティア活動が中心です。自然の中で子どもたちへの体験教育などの活動も



しています。ボランティアは言うなれば、大好きな山への恩返しです。このボランティアに何回か参加しているうちに顔見知りができ、仲間が増えました。整備で汗を流した後に皆といろいろな話をするのも楽しいですし、自分より年長の方々が元気に活動されているのを見ると、自分もがんばろうと励みになります。

権現山の魅力は、身近にありながら自然を体感できることです。展望台や山頂からは広島市の街地と川が一望できます。季節になれば花が咲き、木の実がなり、鳥がさえずり、蝶々や虫がやってきます。自然に触れて感動があり、心も強くなれるように思います。町に近く、気軽に登れる里山ですから、多くの方にこの感動を体験してもらいたい。子どもたちもこの権現山で、自然を愛する心を育ててほしいと思います。

鳥のさえずりに癒されて 権現山を歩いて健康に

みやた あいこ
宮田愛子さん



権現山は毎週のように歩いています。数年前に、何か新しいことを始めたいと思い、夫に誘われて佐東山歩きの会に参加して権現山に登ったのがきっかけです。それまで山登りをしたことはありませんでしたが、登山道もよく整備されていて安心ですし、家が近いのでよく登るようになりました。

東廻り遊歩道を登ることが多いです。安全ですし、山道であけびを見つれたり、巨木を見上げたりしながら歩いています。野鳥も多くて、鳴き声を聞いていると癒されます。山頂付近では桜が見事で、春は楽しみです。秋には紅葉が素晴らしく、四季折々の良さがありますね。

権現山はいろいろなルートがあり、駐車場から毘沙門堂の方へ下りたりもします。園地広場の方へ下りると、桜並木になって、そこからさらに下りて行くと宇那木神社の裏手に下りる道も



あります。古墳や城跡などの歴史的な遺構もあり、見どころが多いですね。

これからも休日に権現山を歩いては、心身をリフレッシュしたいと思います。

権現山の美化活動と “山の朝ごはん”を楽しんでいます

おおくぼけん や
大窪賢也さん



家が近いので、毎週朝一番に登っています。手にはビニール袋と火ばさみを持って、歩きながら落ちていたゴミや吸い殻を拾っています。身近な権現山が少しでもきれいになればうれしくて。ゴミ拾いが終わると、下の駐車場の横の大岩「自然展望台」でメスティン（箱型の飯ごう）でご飯を炊いて、コーヒーを淹れ、“山の朝ごはん”を楽しみます。きれいになった山で、

ゆっくりと広島市内を展望しながら飲むコーヒーは美味しいですね。この美化活動と朝ごはん、もうかれこれ3年以上、100回は行っています。

権現山の遊歩道はよく整備されていて歩きやすく、冬に少々雪が降っても登れるほどです。気軽に登って眺望がよく、四季折々の風景が見られます。春は桜、夏は緑の木陰。秋はどんぐり、キノコ、イチョウやモミジの紅葉と、いつ登っても楽しいです。おすすめのスポットは山頂下の木のベンチ。とても景色がいいんですよ。魅力がいっぱいの権現山、ずっと大切にしていきたいですね。



権現山とわたし②—権現山を守り、育てる

はぐく いくく 森を育み、慈しむ活動である「ボランティアによる権現山憩の森整備事業」を紹介します。



令和4（2022）年度の遊歩道整備には26名が参加



広島市森林組合の指導員から手順を学びます



「いきいきポイント」（広島市の「高齢者いきいき活動ポイント事業」）が付与されます

美しさ、楽しさを実感できる憩の森に

市民の方々に森林の維持管理と自然環境保全への理解を深めてもらおうと、広島市安佐南区役所では平成9（1997）年からボランティアを募り、権現山憩の森の整備を体験していただいています。ボランティアの皆様の協力により、「山」本来の美しさ、楽しさを実感していただく施設を目指し

ています。実施は9～12月の間。花や紅葉の鑑賞、野生動物や虫の観察などの四季折々の自然が楽しめる里山の育成、竹林の整備、森林インストラクターと歩く自然観察会、遊歩道の維持管理などを行っています。

令和4（2022）年度の遊歩道



この日は、権現山林道脇の阿武山登山道入口から約200mの区間の丸太階段を整備しました

の整備では、広島市森林組合の指導員の指導のもとに、古くなった丸太階段の入れ替えを行いました。古い横木を撤去し、新しい丸太を据えられるよう溝を掘って整えます。水平になるように丸太を据えて、丸太を止める杭を打っていきます。



横木を入れ替えるため新しい丸太を運びます

歩きやすい
道に



左から大塚さん、尾越さん、廣田さん

初参加の3人。権現山には1、2回登ったことがあるという大塚茂子さんは「雰囲気がいい山なので皆さんが歩きやすくなれば」「楽しかったです」と尾越ユリ子さん。廣田徳子さんは「次の自然観察会にも楽しみです。よい経験になりました」と笑顔で話してくれました。

山に恩返し



東区の横山祐三さん。「山登りが好きなので、いつも楽しませてもらっている山に恩返しがしたいと思い参加しました。やってみると意外と手応えがありましたが、自分が手がけたところがきれいになったのを見るのはうれしいですね。また登りに来ようと思います」



バールで古い横木やクギを撤去。溝を掘って新しい丸太を据えます



とても歩きやすくなりました。遊歩道整備はその年によって内容や区間が変わります



2か所に杭を打って留めます。作業が終わったら道具を洗って椿油を塗り手入れします

山を大切にしよう

何回か参加しているという女性お二人にお話を伺いました。散歩代わりに毎日のように登っているという多田浩子さんと要田千慧さん。ほかの人と協力してコツを教えてもらったりしながら楽しく行っているそう。自分が手がけたところを歩くのは楽しいし、ボラ

ンティアに参加することで、普段から山を歩くときに「山を大切にしよう」という意識が働くようになったとか。

権現山憩の森整備ボランティアは、広島市広報紙「市民と市政」などで参加者を募集します。ぜひ参加してみてください。

緑井歴史物語

緑井歴史物語

みどり い はっしょう い ど
「緑井」の名の発祥といわれる井戸

きゅう さ とうちようがっぺい
旧佐東町合併の歴史



緑井の由来となった井戸の一つ。上緑井幼稚園近くの石州街道沿いにあります



昭和32(1957)～42(1967)年までの佐東町役場は現在の上緑井バス停前にありました(写真は『想いでの佐東町』佐東地区まちづくり協議会、平成8年より掲載)

古代から今日まで変わらずに続く地名

緑井という地名は古代から現在まで続く全国でも珍しいケースです。平安時代につくられた日本最古の辞典『倭名類聚抄』の地名の部に、安芸国佐伯郡十二郷の一つとして「緑井」の名が出てきます。

この地名は、“緑豊かに土地を潤す井戸”から名付けられたと伝わっています。江戸時代の広島藩の書物『芸藩通志』には、「村の山の麓に古い井戸があり、三尺

(約90cm)四方で深さ二尺(約60cm)、清らかな水が湧く。干ばつでも枯れず、長雨でもあふれない不思議な井戸だ。この井戸の水があるから、緑井という名が付いたにちがいない」とあります。

緑井の名の発祥になったといわれる井戸は、宇那木神社の境内にある御水堂をはじめ、権現山山麓など地区内に何か所か残っています。

みどり い やぎ かわうち 緑井、八木、川内の3つの村が合併

旧安佐郡佐東町は、戦後に町村合併が推進される中、昭和30(1955)年、緑井村・八木村・川内村の3つの村の合併で誕生しました。

「佐東町」という町名は、中世から江戸期にかけてこの地で600年間使われた「佐東郡」という郡名から採用されました。当時の町村合併で歴史的な背景を持つ名前

が選ばれた例は少なかったといえます。佐東町役場は旧緑井村役場に設置されました。それぞれの村が所有していた財産の大半は新しい町へ引き継がれましたが、権現山は元の村が所有する財産として据え置かれ、管理にあたる緑井財産区が設置されました。

その後、佐東町は昭和48(1973)年広島市と合併しました。

う な き じ ん じ ゃ
宇那木神社



毎年10月下旬には秋季大祭が盛大に行われ、神楽などで賑わいます

ごんげんざん ふもと みどり い うじがみ*1
権現山の麓に建つ緑井地区の氏神さま

権現山の東南の麓にあり700年あまりの歴史があります。元々は宇那木八幡宮と呼ばれており、御祭神（神社に祀られている神さま）は帯仲津日子命、品陀和氣命、息長帯日売命の八幡三神です。安芸国守護で銀山城主の武田氏が、武田玄玄の守護神「富士御室浅間神社」の神さまを分けてお迎えし、銀山城の祈禱所として建てられました。境内には御神木のつが 榎の木があり、鎮守の森は環境省の特定植物群落に指定されています。拝殿右奥の登山道を登ると、

う な き や ま こ ふ ん
宇那木山2号古墳があります。境内に八敷地区（緑井7丁目）の守り神「山王神社」と、緑井の名の由来の井戸の一つ「御水堂」があります。御水堂の井戸は武田氏が宇那木神社に水をお供えするために掘ったと伝えられてきました。水の神さま・弥都波能売神が祀られています。

- *1 氏神：集落全体で祀る神道の神さま
- *2 祈禱所：祈禱をするために指定し保護したお寺のこと
- *3 御神木：神社の境内にあって神聖なものとして崇められる
- *4 鎮守の森：神社の境内とその周りにある樹林
- *5 特定植物群落：学術上重要だったり、保護しないとなくなってしまう貴重な植物のあつまり、森林など

ごんげんざん こ ふ ん
権現山古墳



当時この地域の人々を指導し、尊敬された人が葬られていたと思われます

はこしきせつかん*6
遊歩道から見られる古墳時代の箱式石棺

東廻り遊歩道沿いに「権現山古墳」があります。山頂から約500m付近の自然展望台の近くで、そばに駐車場もあります。

古墳は組み合わせ式の箱式石棺が2基、直交する向きに並んでいます。副葬品は発見されていませんが、遅くとも6世紀初めまで、恐らく古墳時代前半までのものではないかといわれています。1号古墳は全長162cm、幅は東側48cm、西側30cmで、高さは50cm、地山を掘り込み板状の花崗岩を組んで築かれています。その少し下にある2号古墳は元は1

号古墳と同規模の大きさだったと考えられています。石棺の北東側から90cmの長さのみ残っています。

緑井から八木にかけては古墳が多数あり、権現山周辺ではこのほかに、鏡の破片などが確認された神宮山1号古墳、画文帯神獸鏡が出土した宇那木山2号古墳などがあります。

- *6 箱式石棺：板石を箱状に組み合わせた石棺で縄文（じょうもん）時代～古墳時代に用いられた
- *7 直交：2つの線や面が直角に交わること
- *8 副葬品：亡くなった人の棺に入れる品
- *9 地山：山の中で、加工をしない天然のままの状態にある地盤のこと

いし や じんじゃ
石屋神社



「石屋神社」の扁額を掲げた石の鳥居の向こうに社殿が見えます



「左三つ巴」の神紋



手水鉢

むなかたさんじょしん おうじんてんのう まつ
海運の神・宗像三女神と応神天皇を祀る

緑井浄水場近くの住宅地に建ち、毎年10月の秋祭りには、境内で地元いしや かぐらの岩谷神楽が奉納ほうのうされています。*10

御祭神ごさいじんは宗像三女神と応神天皇とされます。宗像三女神とは厳島いつくしま神社の御祭神と同じ、市杵島比売いちきしまひめ・多岐津比売たきつひめ・多紀理比売たきりひめのことで、航海の神として知られています。応神天皇とは武運の神ほむ、品陀和気命しんたわけのみことのことで、八幡神ほちまんじんです。丹塗にぬ*11の社殿には八幡神の神紋、しんもん「左三つ巴」が掲げられています。大正時代に奉納された石鳥居をくぐると、境内に入っ

てすぐ右手に自然石しぜんせきに扇の形を彫り込んだ見事な手水鉢ていすいばちがあります。

創建年代は不明ですが、『芸藩通志』によると、平安時代に安芸あきの国くにの神社を紹介した『楽音寺神明帳』に出てくる「佐東郡四位石(岩)屋明神」ではないかとされています。もし「石屋明神」が石屋神社のことだとすると、とても古い歴史を持っていることになります。

*10 奉納：神仏の前で音楽や芸能、競技などを演じること

*11 丹塗：昔ながらの材料を使った伝統的な塗装方法の一つで、丹(に)や朱(あか)(赤色の顔料)で塗ること

や ぎ ようすい
八木用水



太田川発電所からの水を運び、田畑を潤しています

農民の苦境を救った農業用水路

江戸時代中期、明和5(1768)年、桑原卯之助という大工によって作られた農業用の水路で、元は「定用水」と呼ばれていました。太田川右岸のおおたがわ一帯、佐東・安古市・祇園は農耕用水に恵まれず、たびたび日照りの被害を受けて農民は苦しんでいました。これを憂いた卯之助は土木の知識や測量技術を活かし、土地の高低を測量しました。そして、八木村の十歩一から水を取り入れる用水路を計画し、工事を開始しました。完成し

た当日、水が豊かにどンドン流れ込むのを見た農民も役人も卯之助と一緒に泣いて喜びました。卯之助はその功績で苗字帯刀御免みょうじたいとうごめんを与えられました。

大正8(1919)年の大洪水で取水口は1.5km上流の鳴に移されましたが、今も清らかな水がなる一帯の田畑を潤しています。八木の細野神社の石段下に卯之助の功績をたたえた「定用水碑」が建っています。

*12 苗字帯刀御免：江戸時代の武士の特権で、姓を名乗り、太刀を腰に差すことが、平民の身分でも特例として許されたこと

平成26年8月豪雨災害



毘沙門堂の本堂前で土砂などの撤去作業（平成26年9月）

地元の人とボランティアが力を合わせて立ち上がる

平成26（2014）年8月20日未明、安佐南区・安佐北区を中心に集中的な大雨が襲い、土石流によって77名の尊い命が奪われました。緑井地区でも16名が亡くなりました。

権現山でも鳥越川や岩谷川など、土石流が起きた溪流で堰堤工事が実施され、毘沙門台1丁目の急傾斜地は砂防工事が行われました。また、平成27（2015）年1月に土砂災害防止法が改正され、土砂災害警戒情報に基づく迅速な避難勧告発令など情報伝達の

分野の整備も進みました。

毘沙門堂は境内と本堂に土砂が流入し、地元の人々と県内外からの多くのボランティアが協働して復旧作業を行いました。権現山から流れて来た岩石を復旧に活かしたいという思いから、その岩石を使って見事な石垣へ生まれ変わらせました。こうして平成28（2016）年の初寅祭には復旧した毘沙門堂で再建記念法要が盛大に行われました。

*13 堰堤：河川や渓谷の水流、土砂をせきとめるために、石やコンクリートなどで築いた堤防

*14 砂防：土砂災害を防止・軽減するための対策

懐かしの緑井

あの頃を覚えていますか？

私たち緑井地区の思い出を写真で振り返ってみましょう。「権現山憩の森」の完成や緑井小学校創立百周年など、さまざまな出来事がありました。

①



緑井公民館落成行事
（昭和29〈1954〉年9月 緑井小学校にて）

②



可部線から緑井を望む
（昭和30〈1955〉年頃現在の緑井六丁目）

③



東京オリンピック聖火リレー記念
（旧佐東町役場にて・昭和39〈1964〉年9月）

④



石屋神社（岩谷）から望む
（昭和44〈1969〉年6月）

⑤



権現山憩の森が完成した年の
巣箱掛け
（昭和46〈1971〉年3月）

⑥



緑井小学校（昭和50〈1975〉年11月
昭和42（1967）年現在の位置へ。
昭和50年に創立百周年を迎えた

*写真①③⑥は『想いでの佐東町』佐東地区まちづくり協議会、平成8年より掲載

②④⑤は『想いでの佐東町2』佐東地区まちづくり協議会、平成11年より掲載

ごんげんざん
緑井財産区・権現山の本
ふるさと にとっておきガイド

登録番号 広 S2-2023-105

発行 令和 5（2023）年 9 月 初版 第 1 刷

発行者 緑井財産区

緑井財産区事務局（広島市安佐南区役所区政調整課）

〒 731-0193 広島市安佐南区古市一丁目 33 番 14 号

TEL 082-831-4925

制作 有限会社 南々社

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。